

# 自立に向かう図画工作科の学習

第5学年「自分だけのどこでもドア」、「不思議なたまごのなかから」の実践を通して

加藤 潔 己

## 1 はじめに

本年度、本校の研究テーマ「自立に向かう子どもたち」の具現化に向けて、図画工作科では、自立に向かう子どもの姿を次のように構想していった。

本校図画工作科として自立に向かう子ども像

思い（夢や願い）の実現のために

自ら **必要な方法を考え、判断し、表現する** 子ども

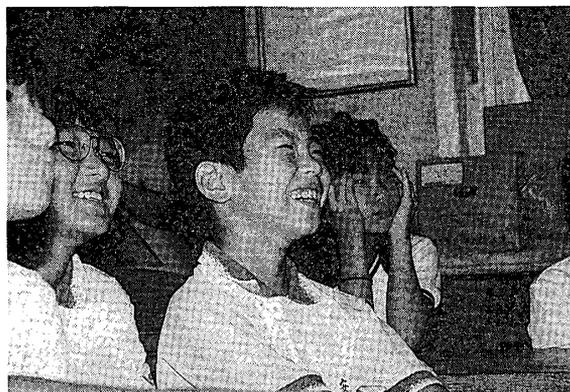
高学年では、「自ら必要な方法を考え、判断」するうえで、見通しをもって、高めながら、総合的に学習することに重点を置く。また、サブテーマ「自分で決める場を大切に」については、次のように考えた。

本来、図画工作科の学習は活動の自由度も大きく、思いも表現方法も作品なども、より個性化に向かうものである。そのため「自分で決める」ことは、必然的に行われてきている。ただし、その決定の動機が内発的でなくてはならないし、切実感のあるもの、あるいは造形的表現欲求を満たすものでなければ、その決定や、それに続く活動は、「自立」を育むものにはなりえないと考える。ただ「決める」のではなく、「自分の思いの実現のために、自分で決める」という決定が求められると考える。

### 研究の方向性

学校教育であるからには、学習には、場の設定や指導などの、教師の働きかけが不可欠である。それぞれの視点での、指導者（教師）のはたらきかけと学習者（子どもの決定の主体の度合いについて、次の表に表してみた。低学年から高学年へと、発達段階につれて決定の主体が学習者（子ども）に移行していくことができれば理想的であると考え、領域（造形遊び、表したいものを絵や立体で表す、つくりたいものを作る、鑑賞）によっても、題材のねらいによっても、それぞれの主体の度合いも変わってくる。教師サイドのはたらきかけ（指導・支援活動）と、子どもサイドの自主性や主体性をどのように位置づけていくかに関わっての視点として構想した。

子ども	← テーマ →	教師
	← 表現形式 →	
	← 材 料 →	
	← 方 法（技法） →	
主 体	← 仲 間 →	設 定
決 定	← 時 間 →	はたらきかけ
	← 空 間 →	



※左に寄るほど、子どもの主体的な決定が、また右に寄るほど、教師の設定や指導が、それぞれ強くなるということを表す。

## 2 実践例

### (1) 【事例その1】題材「自分だけのどこでもドア」

#### ① 題材について

ドアとは、本来は、一つの部屋から別の部屋、あるいは家の外への出入り口に位置する仕切である。「どこでもドア」は、今いる世界から、子ども達が夢見るさまざまな別の世界への移動可能な魔法のドアであり、まんがドラエモンに登場する人気アイテムである。マンガのアイテムということで、子ども達も安心して自分たちの感情の移入ができると考える。「自分だけのどこでもドア」の製作は、子ども達一人ひとりの持つゆめやあこがれなどの思いをふくらませ、自分らしい表現の追究を可能にすると考え。教師の提案する「ドア」というきっかけをもとに、そこから先の活動は、子ども達が自分の力で考え、判断し、表現する題材であり、さまざまな自己決定を期待できる。

#### ② 指導目標

1. ドアのなかに広がる世界を見通しをもって、表現することができるようにする。
2. 作りたいものや作りたい世界の感じが表れるように、形や色、材料を選び、工夫して作ることができるようにする。
3. 自分や友達への工夫・発想のよさに気づき互いに認め合う態度を養う。

#### ④ 本時の目標

自分だけの「どこでもドア」の製作に意欲を持つとともに、自分の製作過程の見通しをもつことができるようにする。

#### ⑤ 今回の授業 決定主体と教師のはたらきかけ

子 ど も  主 体 決 定	テーマ (ドア)	教 師  設 定 は た ら き か け
	材 料	
	方 法 ( 技 法 )	
	仲 間  空 間	
	時 間  空 間	
	表 現 形 式	

テーマ、方法、材料、表現形式は児童が決定し、製作する時間数、活動場所は、教師が設定する。仲間の項目については、個人で製作するか、グループで製作するかについては、原則として、一人一作品とするものの、目的に応じて、共同の場合もある。

指導内容と計画..... 6時間 (本時 第一次 第1時)

#### 第一次(1)

ドアのなかの世界について構想する。

表したい世界

ドアの形状

#### 第二次(5)

ドアと其中に表現するものを製作する。

色、形選び

材料選び

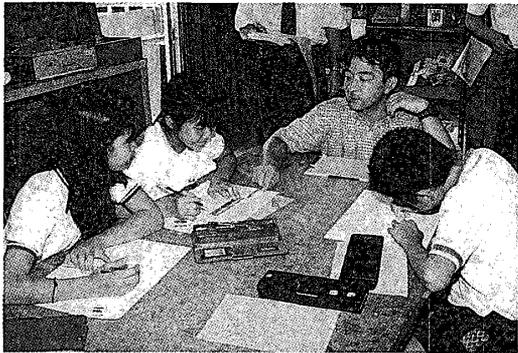
鑑賞する。

#### ⑥ 学習の展開

学 習 活 動	教 師 の は た ら き か け
1 教師の提示した「どこでもドア」の向こう側の世界を想像しながら、各自の思いをふくらませ、つくりたいという意欲をもつ。	1 活動の意欲づけを図り、発想を広げるために「どこでもドア」を提示し、クイズの答えを考へることによって、ドアの向こうの世界を楽しく想像することができるようにする。
2 「どこでもドア」からの提案から、各自の「自分だけのどこでもドア」のアイデアを考えたり、構想を練る。	2 製作に対して大まかな見通しをもつことができるようにするために、製作過程のモデルとして、次の方法を提示する。

政策過程のモデル	① 資料集め→ アイデアスケッチ→ 材料集め→ 試し→ 製作
	② アイデアスケッチ→ 材料集め→ 試し→ 製作
	③ 試し→ 材料集め→ 製作
	④ 参考作品の鑑賞→ アイデアスケッチ→ 材料集め→ 試し→ 製作
	⑤ ①～④の組合せや並び替え, または子ども自身が考えたもの

3 活動をふりかえり, 次時の見通しをもつ。



- ・自分が決めた製作の方法について, 今後, ふりかえりができるように, 決めたわけや実践を記録することを伝える。

3 本時の活動をふりかえり, 次時への見通しをもつことができるように, 図工カードに以下の点での記述を勧める。

- ・次時の準備
- ・教師への質問, 要請

⑦ 子ども達を選んだ(構想した)製作プロセス(5年2組38名)

製作プロセス					その製作プロセスを選んだ理由	
鑑賞	アイデアスケッチ	材料集め	試し	製作	もう頭の中に作りたいものが浮かんでいるが, 先生の作ったものも参考にしたいから。 人を見てよいところを取り入れる。自分が考えていることが本当にできるか。材料はどれくらいか。 まず鑑賞でアイデアを増やして, スケッチでどんなになるかみて製作したい。少し作品を見て決めたいから。 [死んだ生き物を生き返らせたい] ほんやり頭の中にあるが, 鑑賞してスケッチしたい。	
		鑑賞		製作	考えはあるが, いろいろ作り方があるようなので鑑賞する。スケッチで自分の考えをまとめる。 もう一度鑑賞してつけ足せるところを書き入れ, すべてをまとめて製作する。「自分の理想の家」	
資料集め	アイデアスケッチ		試し	製作	製作する前に, よいところ, 工夫点を取り入れたいから。 材料など自分の作品に合うものを見つけて作りたいから。 じっくり鑑賞をし, それを生かし上手くいったら, 製作したい。 先生の作品を見本にしたい。	
			試し	材料集め	製作	なんとなく。
			試し	製作		しっかりアイデアをふくらませ自分にあったドアを作りたいから。
			試し	製作	少し鑑賞した方が, アイデアが浮かびやすい。	

資料集め	アイデアスケッチ	材料集め	試し	製作	あまり浮かんでこないから。 なんとなく。 少しわかるけど、まだなんとなくわからないところがあるから。 もう少し材料を見て、自分の作りたいものをはっきりさせたいから。
				製作	すぐ作りたいから。
				製作	資料さがしを先にして、どんなものがあるかなど、道すじをつけてからやりたいから。 ? ? 海の風景
	鑑賞	アイデアスケッチ	試し	製作	いつもこういう順序にしている。
	材料集め			製作	資料を参考にする。アイデアをふくらませる。 アイデアをふくらませる。
	試し			製作	時間がかかりそうなので、資料を先に集める。ポケモンのカード集め
アイデアスケッチ	材料集め		試し	製作	もう頭の中に作りたいものが浮かんでいるが、工夫するため資料を見たい。 少し工夫したいので、資料を探したい。 なんとなく。
			製作	製作	アイデアが浮かんでいるので、スケッチに残す。 アイデアがすぐ浮かんだから。 頭の中にやりたいことがあるから。 ? 木星に十個以上の隕石が落ちる様子
	資料さがし			製作	簡単にスケッチしておいて、材料さがしをした方がよい。
	試し			製作	作るものが決まっている。
鑑賞		試し	製作	?	

### ⑧ 考察

#### (ア) 授業仮説についての検証

いくつかの製作過程のモデルを提示し、子ども達が必要に応じて参考にしたり取り入れたりする場を設定するなら、

自分の製作過程を、大まかな見通しをもって決めることができるであろう。

分析 子どもたちのアンケートの記述から (38名欠1名)

#### ① 製作過程のモデルの提示が自分の製作に役立ったか、どうかについて。

・とても役に立った	20名	} 87%	
・役だった	12名		
・あまり役立たない	2名		5%
・無記入, その他	3名		8%

#### ② 役に立つと考えた理由

- ・参考になった。
- ・自分だけでは考えるのが難しい。
- ・何を先にしたらよいか分からないから。
- ・見通しを持つことができた。
- ・自分の見通しが立った。
- ・自分の中で一番いい方法を教わった。

以上のアンケート結果と活動中の児童の観察から、製作過程のモデルの提示は、大まかな見通しづくりには有効であったと考える。しかし、モデルの提示を本授業、導入部段階で設定したことは、活動に向け、意欲的になっている児童に対して、流れを一時止める要因にもなりうると考えられる。

モデル提示の時期(どの学年段階で適切か、年間のどの時期がよいかなど)、タイミングなどについて配慮が必要である。

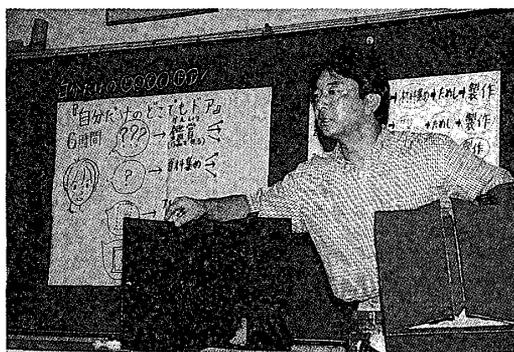
(イ) イメージの形成に関する検証

箱の中を想像する場面の設定の仕方が、イメージのふくらみに対して有効であったか。

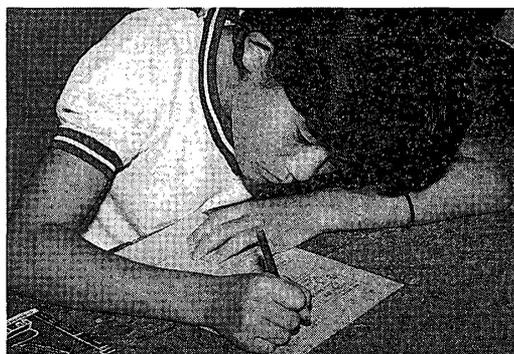
【分析】

本授業では、その導入部で、活動の意欲付けを図り、発想を広げるため、次の支援を設定した。

- ① サンプル(参考作品例)の提示(右写真)
- ② サンプルに関するクイズ



サンプル1…先生の行きたい海だけど、どんなものがあると思いますか。  
 サンプル2…真っ暗な世界に雲のようなものがあるけど、ここはどこなんだろう。



児童のアンケートの集計から

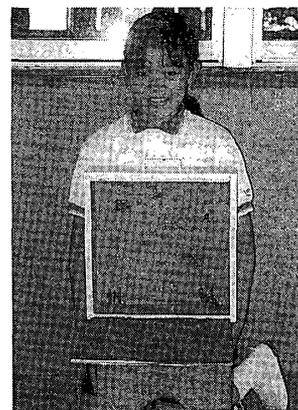
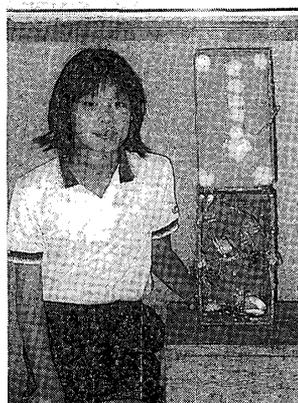
意欲に関して(やる気が起きたかどうか)

・とてもおきた	17名	}	91名
・おきた	17名		
・あまりおきなかった	3名		8名
・ぜんぜんおきなかった	0名		0名

(やる気が一番起きたのはいつか)

・導入部	20名(54名)	・アイデアスケッチ	8名(22名)
・資料め	5名(14名)	・その他	4名(10名)

以上のことから、①、②の設定がイメージ形成に有効であり、その結果として活動意欲を引き出していると考えられる。しかし、どの程度有効であったかについては、課題がある。まず、クイズについては、子ども達の発想を広げるための発問の仕方として、海のイメージを問うことだけでよかつ



たかどうか。次に、サンプルを2つ提示したが、同質なものに偏った。このサンプルは廃棄した机の引き出しを使い、とびらをつけ、中に世界を作りだそうとしたものである。二つのサンプルとも、この形のものを使った。子ども達の発想の広がりを目指すためには、提示するサンプルは、大小、夢と現実、抽象と具象のように、異質のものを幅広く、多様に用意する必要があったと考える。

(2) 【事例その2】題材「不思議なたまごのなかから」

① 題材について

本題材は、張り子のたまごのなかや、そのなかから生まれでてくるものを自分なりの発想で、楽しく想像しながら自分だけの不思議なたまごを製作していくものである。

たまごは、丸い形のものに限定せず、四角、三角など、たまご型以外のものもよしとする。いろいろな形にすることで、型破りな思いもよらない発想で楽しく製作することもできると考える。たまごの外側は、自分が作りたい形のものに和紙を張り重ねた張り子にする。たまごの中身をつくる前に、まず、外側の張り子のたまごづくりをする。張り子のたまごづくりをしながら、中身に対しての思いは温められ、子ども達の発想は豊かに広がったり、深まったりするであろう。

② 学習のねらい

1. 不思議なたまごづくりを見通しを持って、意欲的に取り組むことができる。
2. 自分なりの不思議なたまごの思いに応じて、形や色、材料選びなどを工夫することができる
3. 自分や友達によさに気づき、互いに認め合うことができる。

④ 授業設計の焦点

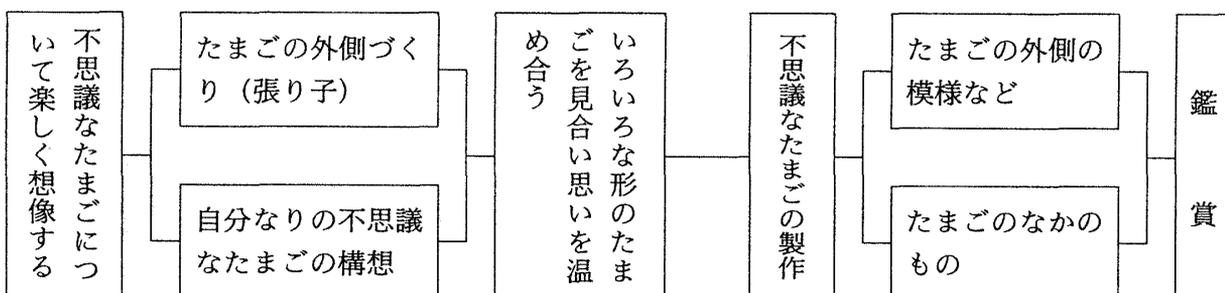
前時に、丸い形以外のたまごやたまご以外の物の張り子を見合う場の設定をすることによって、発想のおもしろさに気づいたり、自分の思いを温めたりできるようにする。新しい発想が生まれれば、積極的に取り入れることもすすめたい。

本時は、温めてきた自分たちの発想を、自分で用意してきた材料を使って表現していく時間である。個別に子どもたちの思いをしっかり把握し、材料集めや新しい試みなどのよさを見つけ、共感し、励ましていくことに支援として努めたい。

また、子どもたちが思いの追究に向けての自分の製作について、ふりかえり、次時に活かせるように言葉かけしたい。

今回の授業		決定主体と教師のはたらきかけ	
子ども	テーマ (たまご) 方法 (技法)	時間 仲間 空間	教師
主体 決定	材料 表現方法		設定 はたらきかけ

⑤ 指導内容と計画……………8時間 (本時 第二次 第1時)  
第一次(3) 第二次(4) 第三次(1)



⑥ 学習活動

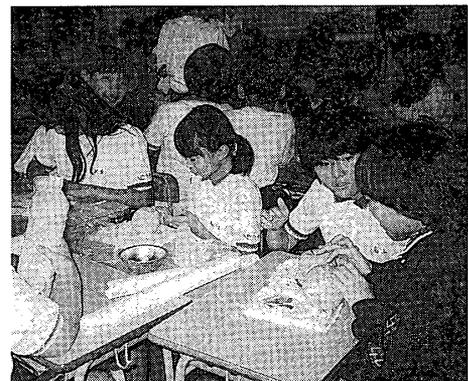
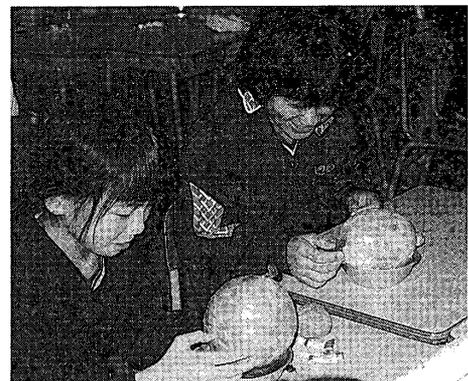
本時のねらい

不思議なたまごのなかを、自分で用意してきた材料を使って、楽しく製作していくことができる。

準備物

(児童) 製作に必要な材料 図工ファイル

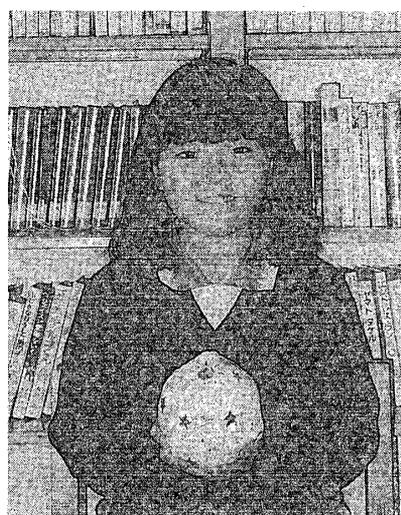
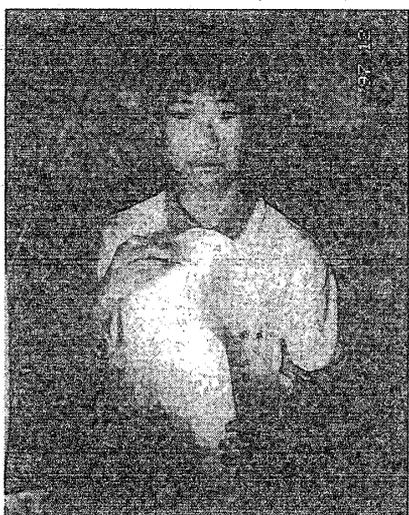
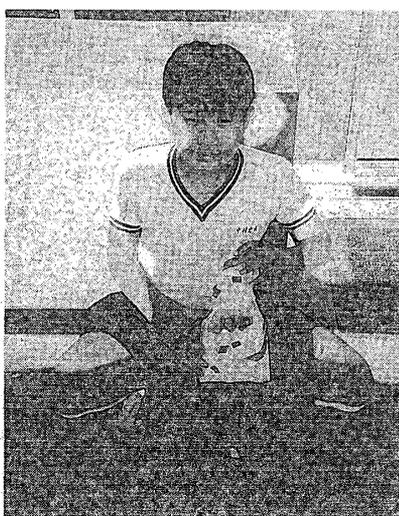
学 習 活 動	教 師 の 働 き かけ
<p>1. めあてを確認し、製作の見通しをもつ。</p> <p>2. 不思議なたまごの製作をする。</p> <p>3. 活動をふりかえり、次時への見通しをもつ。</p> <p>4. 後かたづけをする。</p>	<p>1. 製作の見通しが持てるように時間配分や用具、製作場所について説明する。</p> <p>2. 意欲的に製作できるように、次の点に留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい発想やよい工夫があれば、その場で取り上げて、他の子どもに紹介する。</li> <li>・自分の思いにあわせて、素材や用具を選んだり、新しい表現をみたりすることを励ます。</li> <li>・材料集めについて賞賛する。</li> </ul> <p>3. 本時の活動をふりかえり、次時への見通しを持つことができるように、本時の感想や次時にしてみたいことについて発表の場をつくる。</p> <p>次の点について、記述するよう伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製作について よかったところ がんばったこと 難しかったところ</li> </ul> <p>4. 協力して片づけることへの言葉かけに努める。</p>



⑧ 考 察

本実践では、製作過程のプロセスについては、指導者側からは、オリエンテーション時に軽く触れたものの、【事例その1】のように、特別に取り上げて提示してはいない。図工室には、【事例その1】で示した製作過程のプロセス表を常時、掲示して子ども達が、自分の必要によって取り入れることができるようにした。本校図画工作科の求める「自ら必要な方法を考え」という子ども像の理念である。子ども達は、前回の単元【事例その1】で、図工ファイルに製作過程のプロセスを記入したカードをもっており、参考にして製作している。

### ⑨ 子ども達の作品



### 3 終わりに

「自立に向かう」子どもの姿として、「自ら必要な方法を考え、判断する」子ども像を構想した。本年度、研究の副題でもある「自分で決める」ことは、その決定の動機が内発的であること、そして、切実感のあるもの、あるいは造形的表現欲求を満たすものであることが必要であるということは、研究実践の中でも十分に認められた。そして、そのための、題材の開発、題材の扱いはある程度の成果が見えはじめたところである。

また、今回の実践の中では、製作プロセスについて取り上げてみた。どの時期にどのように、提示するのかは今後の課題である。

自己決定について、決定主体と教師のはたらきかけの図表の構築は教育課程（年間指導計画）の中での位置づけを検討していきたいと考えている。